

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892700093		
法人名	社会福祉法人 那珂の郷		
事業所名	グループホーム こはるの郷		
所在地	兵庫県多可郡多可町加美区大袋194-1		
自己評価作成日	令和3年9月1日	評価結果市町村受理日	令和3年11月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ兵庫福祉調査センター		
所在地	尼崎市南武庫之荘2丁目27-19		
訪問調査日	令和3年10月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の自発性や主体性を重んじ生き生きとした生活が送れるように日頃から意識して支援しております。その中で月2回の色々な事を話し合うプチ会議を実施しており、各職員の得た情報やご利用者様への思いなどを意見交換し情報共有を行いケアに繋げています。特に認知症の維持、改善に向けた取り組みとして、運動・園芸・音楽・学習療法や回想療法など様々な角度からのアプローチの実施を行っており、各ご利用者様が元気に楽しく過ごされています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

四季の変化を感じられる緑豊かな立地環境と1ユニット9名という少人数の特性を生かして、利用者全員の下肢筋力低下防止目的の、事業所周辺の散歩に力をいれ、住み慣れた地域のこれまでの生活の延長という、グループホーム本来の目的達成に務めてきた。ところが昨年来のコロナ禍で家族との面会制限や毎日の散歩の中止などの措置を行うこととなり、利用者には、家族と会えないストレスや散歩中止の影響が見られるようになった。これらの対策として、レクリエーションの充実や食事に配慮している。コロナ禍が終息し、利用者・家族・職員一同が共に喜び合える日が早く訪れるのを祈るのみである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「のんびりとした暮らしと生きがいのある生活の提供」「地域とのつながりを大切にす る」毎月の話し合いにて情報の共有を図つ ている	事業所理念をミーティングで話し合い、共有 して実践につなげている。地域とのつながり はコロナ禍で中断されているが、理念の中で 常に思いは共有・継続するように努めている 。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	コロナ禍で交流が困難な為、2カ月に1度地 域代表の方と情報の交換を行っている	コロナ禍で現在、地域との交流はないが、民 生委員の方には紙面での報告を行って情報 交換をしている。職員は今後コロナが落ち着 けば実施したい(外食や買い物、ボランティ アの受け入れ、世代間交流など)について話 し合っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向け て活かしている	キャラバンメイトの登録を行い要請時に活 動を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かし ている	取り組み状況について紙面で報告を行って おり、得たご意見を日々のケアへ繋げている	運営推進会議は昨年9月より対面での会議 は中止となっている。メンバー(市健康福祉 課職員、民生委員、家族代表)には、書面に て取り組み状況(日中の過ごし方、食事内 容、体調の管理、入浴等)について報告し、 意見をきいている。	コロナ禍で家族が利用者の事業所で の様子を知る機会が少なくなっている ので、事業所の取り組み状況を全家 族に報告し、意見や要望を聞かれる ことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝 えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当の方への情報をしっかり提供し アドバイスを頂き、日々のサービス提供へ 繋げている	コロナ禍において、電話等で現状の報告を 行っている。市よりマスク・手袋、消毒液の支 援を受けた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指 定基準における禁止の対象となる具体的な行為」 を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身 体拘束をしないケアに取り組んでいる	各職員が身体拘束について学んでおり、職 員同士連携し対応を行っている	毎月の会議の中で議題として話し合ったり、 拘束マニュアルを確認している。利用者の尊 厳を大事にケアにあたっている。玄関ドアは 夜以外は施錠していない。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会の実施や個人面談、会議等で話し合い振り返りを行っている	毎月の会議の中で意見交換を行い予防に努め、面談ではより個別にターゲットを絞って意見交換を行っている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会などを実施し周知している	現在、成年後見人制度を利用されている方はおられない。権利擁護とその制度については勉強会で学んでいるが、更なる研修をしていくとしている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時等には十分な時間をとり説明を行い、しっかり納得される様努めている	契約書や重要事項説明書に基づき十分な時間をとって説明している。特に費用面や受診、状態の悪化時などの施設の利用継続についてなどは詳しく説明している。改定時は電話説明や文章を記載した書面を送付し対応している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様に関しては来所時や運営推進会議への参加時に要望等をお聞きしており、ご利用者様からは日々の生活の中でのご意見等を反映できるようにしている	利用者の思いや要望は日頃の会話等から汲み取るようにしている。現在は外出支援や外食などが出来ない為、施設内での食べ物作りなどで希望を聞く等している。家族の意見や要望は主に電話対応又は受診時に伺うようにしている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個別に面談を実施している、その他日々の中で意見交換を行っている	利用者の生活における工夫や食事面、排泄面、薬の問題など多々意見多く、その都度出来る問題からクリアし支援を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的の面談時に目標設定を行い、日々進捗状況等の把握を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個別の力量を把握しレベルアップに向けた取り組みの情報提供等を行っている		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームによる連絡会を実施しており情報交換を行っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談時に得た情報を他の職員と共有し入所後のケアに繋げている、また入所後も交流の機会を作り安心した生活環境づくりにも反映している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談時に不安に思われていることなどをお聞きし安心してご利用して頂ける様に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に思いを伺い、他のサービスも含めた対応を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ここの能力に応じた家事など生活リハを行って頂き役割を作る事で生きがいに繋がる様に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様にとってのご家族様の影響力を理解して頂き協力関係を築けている		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様だけでなく、親類や知人等の面会も有り馴染みの関係が作れている、また再訪問しやすい雰囲気づくりに努めている	家族は一時的に面会が出来ても親戚や知人の面会はまだ先になり、現在はすべて電話対応となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間に職員が入り、会話のきっかけを作ったり、能力に応じた役割を実施して頂くようにしている		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の来所あり、意見交換等を行い支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話より情報収集を行い意向に沿えるように努めている、またご家族様当よりも話を伺いケアに繋げている	日々の中で一緒にレクを行う等積極的にコミュニケーションをとる事で信頼関係を構築し、誠意をもって対応する事で今の思いを把握し支援に繋げるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報収集などもしっかり行い本人様にとっては生活の続きが出来る様に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段より状態の観察をしっかりと行う事で変化に気付き情報の共有が出来ている		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間では会議等で話し合い、ご家族様とは面会時に情報交換を行い反映している	日常生活の中で本人の思いや希望を把握し、職員会議で話し合い、介護計画に反映するようにしている。家族の要望や意向は電話や受診時に伺っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録の中に小さな気づき等も記入する事で実践や介護計画にも活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様が定期受診への付き添いが困難な時は訪問診療棟の打診を行い実施している		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	知人の面会や近隣の理美容などを活用しながら生活範囲拡大を意識して支援を行っている		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には従来からのかかりつけ医を継続して頂いており、必要時は連携を取り適切な医療が受けられる様に支援を行っている	利用前からのかかりつけ医を継続して頂いている。受診は基本的には家族となっている。協力医療機関の往診を利用されている方もおられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護師の来所時と必要時に情報提供を行い、適切に受診等を行っている		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は入院先に情報提供を行い、入院中は担当者の方と情報共有を退院時期等の話し合いを行っている	コロナ禍において基本的には電話対応と情報提供書の送付を行っている。退院時は事前カンファレンスに参加し退院日などを調整している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化された時の指針を説明しており、同意書にも署名して頂いている	入居時、重度化した場合の事業所の対応を説明し、同意書に署名して頂いている。重度化した場合は基本的には協力医療機関等と連携し対応して行く。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習に参加したり書面での周知を行っている		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難訓練を同敷地内の事業所と共同で実施している	年2回火災避難訓練を行うこととしているが、今年度は未だである。風水害や地震の災害に対する準備・訓練も必要と考えている。停電対策や備蓄などは現在検討中である。	消防署の立ち合い・指導の下、年2回の災害訓練をされることが望まれます。地震や風水害等を想定して職員間や運営推進会議のメンバー等とも話し合い、地域の人々の協力も仰ぎながら対策等を検討して行かれことを期待します。

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内の接遇研修に参加している、お世話させて頂いているという気持ちを意識して対応している	人生の先輩として尊敬の念を持って接することを申し合わせている。利用者への言葉づかいは敬語であるが、堅苦しくなく親しみのもてる会話により利用者との距離を近づけるようにしている。居室でのプライバシーは安全確認との兼ね合いもあるがなるべく損ねないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様のペースに合わせて会話、行動をするように心がけており、主体性を意識したコミュニケーションを取るよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の予定は設定しているが、基本的にはご利用者様の移行や体調等に臨機応変に対応するよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様自身に衣類等を選んで頂いたり、その他、理美容では毛染め等の選択もして頂いている		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会や季節に沿った食事、その他普段から聞き取りで得た情報より、食事やおやつ作りを行う際は準備からご利用者様と一緒にやっている	主食と汁物は事業所で作り、副食は食事形態にも配慮された配食サービスを利用している。現在、食事をお手伝いして下さる利用者は少なくなっている。コロナ禍で外出・外食もできないので、月1～2回は利用者の希望や季節感を取り入れたメニューでの料理レクを楽しんでいる。中庭で栽培された野菜が食卓にあがる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各ご利用者様の状態に合わせた形態や量の調整を行い、提供のタイミングなども出来る範囲で個別に対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と就寝前に口腔ケアを勤めており、必要時は一部介助もやっている		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録などより情報収集を行い、会議等で話し合い実施後に評価を行うなど自立に向けた取り組みを行っている	勉強会及びカンファレンスで排泄についての話し合いを行っている。トイレサインの周知などに努め、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給と適度な運動の実施、必要に応じて下剤を使用し量、種類の調整を行っている		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各ご利用者様の希望を出来るだけ対応できるように余裕を持った入浴予定にしている、その他声掛けの工夫なども行い衛生管理に努めている	週2回以上、基本的には午後に、自動循環装置の浴槽にて入浴して頂いている。同性介助は希望時に対応している。職員と1対1なので世間話をする等、コミュニケーションの場ともなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には希望に沿って対応を行い、必要時は声掛けの内容を工夫し対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬リストをファイリングしておりすぐに確認できるように近くに置いている、また状態に合わせて主治医に相談し服薬の支援を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や普段の会話、その他ご家族様等より情報収集を行い一人ひとりが楽しく生活できるように支援をしている		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナ過で普段の外出や面会等が中止となっており、今は受診時にご家族様との時間を過ごして頂いている	コロナ以前に行っていた散歩・外出・買い物等は中止となっている。室内にて歩行、体操、その他のレクを実施している。受診時のみ感染対策を行った上で家族と出掛けている。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者や必要と判断した方には、お金を所持して頂いており支払い時に使用して頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様が過ごされているリビングに電話を設置しており希望時等に対応させて頂いている		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には落ち着いた色の家具等を配置しており、設えの物を置いたり季節に合わせて飾りなどを設置している	共用の空間は落ち着けて、そこに居るだけで楽しく居心地の良い場所になるように飾り付け等を工夫している。それぞれ四季を通じて作られた作品の展示などをして達成感も感じてもらっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席を気の合った利用者同士にしたり、レクの内容によってスムーズに実施できる環境づくり等の支援を行っている		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前よりご家族様に説明させて頂き、設えの道具等の持参を要請している、その他日々の中で情報収集を行いプライベート空間を意識して支援を行っている	今までの生活道具を持ち込んで頂き、思い思いの物を自分の周りに置いて頂いている。あまりトイレなど、日常的に必要な無いものは置かないようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	案内表示の設置や生活リズムをある程度確立する事で安定した生活環境作りに努めている		

基本情報

事業所番号	2892700093
法人名	社会福祉法人 那珂の郷
事業所名	グループホーム こはるの郷
所在地	兵庫県多可郡多可町加美区大袋194-1 (電話)0795-20-2218

【情報提供票より】令和3年9月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 29年 9月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 名
職員数	7 名	常勤 6名(内1名は他事業所兼務)	非常勤 1名
		常勤換算	5.9名

(2)建物概要

建物構造	木造り1階建ての1階部分
------	--------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	共益費 170円/日	
敷 金	200,000円		水道・光熱費 610円/日	
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,392 円			

(4)利用者の概要(平成30年7月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 88, 4 歳	最低	79 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	多可赤十字病院 松井庄診療所 藤田歯科医院
---------	-----------------------

(様式2(1))

事業所名 グループホームこはるの郷

目標達成計画

作成日 令和3年11月2日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	現在、コロナ禍において、ご家族様等との面会も出来ておらず、事業所での様子を知る機会がほとんどない状態なので、今後は情報の提供を行っていく必要がある。	月1回の「お便り」の発行を行う	・提供する情報内容を話し合い、ご家族様からも意見を頂きながら充実した内容にしていく。	6か月
2	35	災害対策において、地域との連携が確立されておらず今後話し合っていく必要がある。加えて避難訓練等においても、内容を充実させ実施していく必要がある。	災害時の地域等との連携の確立 災害時訓練の充実	・災害対応として運営推進会議等で話し合い地域の方との協力体制の構築 ・避難訓練その他、年間の実施計画に沿って実行していく。	12か月
3					
4					
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。